

夏越の大祓のご案内

茅の輪くぐりの神事

六月の晦日、恒例の夏越の大祓(おほほらえ)並びに茅の輪くぐりの神事を斎行致します。どなたでもご自由に参加できます。ご参列下さいませようご案内申し上げます。

六月	七月
二十三日(日) 午後三時	七日(日) 午後四時
二十九日(土) 午後三時	
三十日(日) 午後六時	

◆ 玉串料 茅の輪飾り三〇〇〇円(一世帯)
◆ 授与品 茅の輪飾り・御神菓

古来我々の先祖は、毎年半年ごとに「大祓」によって心身を清浄にし、新しい半年の幸せを祈願しました。この祭儀に先立ち「人形・車形」をお届け致しますのでご家族のお身体・お車をお清めになった後、同封の返信用封筒にてご返送いただくか、大祓当日にご持参下さい。新しい一年の「幸せ」のご縁をお授かりになりますようご案内申し上げます。

出雲大社相模分祠長 草山清和



夏越の大祓とは

大祓神事の歴史は古く、もっとも古い神道儀礼の一つでもあります。大祓神事の際に奏上される大祓詞(中臣祓)は平安時代の法律書「延喜式」(九一七年)に記載され、古代豪族の中臣氏が司る宮中行事でもありました。人が生きる上で知らず知らずのうちに犯した罪や穢れを取り除き、災厄を避け心身を清らかにすることを目的とした神事です。毎年六月の晦日、十二月の晦日の年二回行い、半年ごとの罪穢れをお祓いします。わけても、江戸時代以降はこの六月の夏越の大祓には茅の輪くぐりの神事を斎行し、広く江戸の庶民に広まったとされ、日本中の神社で斎行される伝統行事となりました。

当分祠でも毎年欠かさず斎行する恒例行事であり、大きな茅の輪くぐりを製作しております。初夏に奉仕会の有志が秦野盆地の山に赴き茅を切り出し、それをシュロ紐で結びつけ人がくぐれるほどの大きな茅の輪を製作します。これが大変難しく茅の具合や締め付けの強さなど細心の注意を払う必要があります。均一な太さに編み込むには熟練の手法が必要とされます。《茅の輪くぐりの作法》

「みな月の夏越の祓えする人はちとせの命のぶといふなり」一周目
「思ふ事みなつきぬとてあさの葉をきりにきりてもはらひつるかな」二周目
「宮川の 清き流れに 祓せば 祈れること の 叶はぬはなし」三周目

夏越の大祓神事には例年百人以上の参詣者で賑い、和歌を歌いながら行列を組んで茅の輪を三周廻ります。茅の輪くぐりの神事を終えると、社殿に昇殿し改めて大祓詞を神職の先導の下、参拝者全員で唱和します。初めての人でも一度練習してから皆様ご唱和頂くので安心して参加頂けます。年々参加者も増え、日数回数を増やして大祓の神事に取り組んでおられますが、多いときには社殿に入りきれないほどの盛況ぶりです。当日参加の方はお早めに受付をお済ませ下さいませ。

で和歌を唱えることが作法とされます。

【ご来社される場合】
当日ご参列の方は人形(ひとがた)・車形(くるまがた)を準備の上、玉串料(三千円)を添えて授与所へ受付までお越し下さい。(予約不要・当日参加可)大変混雑しますので二十分前にはお越し下さい。
【当日不参加の方】
当日ご参加できない方は事前にお預かり致します。人形・車形・玉串料を封筒に入れてご持参下さい。
【郵送される場合】
ご参列の叶わない方は郵便振込にて玉串料の三千円をご送金下さい。後日、記念の縁起物を発送致します。

なんで茅の輪をくぐるの？

その答えは出雲神話(備後国風土記)に伝えられております。ヤマタノオロチを倒した素戔嗚尊(スサノオノミコト)が、旅をしている途中、蘇民将来(ソモンショウライ)、巨目将来(コタンショウライ)という兄弟に宿を求めたところ、弟の巨目将来は裕福であったにも関わらず宿泊を拒んだのに対し、兄の蘇民将来は貧しいながらも喜んで厚く饗しました。その数年後、再び蘇民将来のもとを訪れた素戔嗚尊は「もし悪い病気が流行ることがあった時には、茅で輪を作り腰につければ病気にかからない」と教えられました。そして疫病が流行したときに巨目将来の家族は病に倒れましたが、将来の家族は茅の輪で助かったというのです。この言い伝えから「蘇民将来」と書いた紙を門に貼るといふ信仰が生まれました。

茅の輪も当初は伝説のおり小さなものを腰に付けるというものでしたが、江戸時代初期になり、大きな茅の輪をくぐって罪や災いと取り除くという蘇民神事になったと言われています。

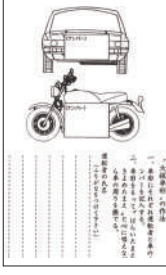
人形車形の使い方

人形(ひとがた)とは古くより褌や祓をする時に人間の身代わりとして用いてきました。無物(なでもの)ともいい厄を移した後、川などに流していました。

当分祠では夏冬の大祓の際に、人形(ひとがた)・車形(くるまがた)を形代(かたしろ)にして自らの罪穢れを移しお祓いします。人形の紙に氏名を記入し、息を三回吹きかけ、頭から全身気になる場所を撫でこすり、悪い気を取り移してお祓いします。また、車形に氏名・ナンバーを記入し人形同様に愛用してあります。乗用車、二輪、バイクなどの四方を撫でこすりて罪穢れをお祓いし、当分祠にお納め下さい。大祓神事の際、身代わりとしてお清めした後、忌火をもってお焚き上げします。(人形・車形は授与所にもご用意しております)



◆授与所に頒布【1000円】



※夏越の大祓の締め切り 七月末日迄

七五三詣のご案内



▶七五三写真展

七五三のお祝いとは、子供たちに元気に育ってほしいとお祈りし三歳、五歳、七歳と成長する様をお祝いの儀式です。

七五三には三歳の男女の「髪置き」、五歳男子の「袴着(はかまぎ)」、七歳女子の「帯解き」のお祝いで、三歳・五歳・七歳の三つの祝いをまとめて「七五三」と呼びます。

◆御祈願料
二万円七千円・五千元
お子様の授与品として福袋(おもちゃ入り)・御守・千歳飴を授与。二万円以上「神話紙芝居」授与。

◆祈禱受付時間
八時四十分～十六時三十分(事前の予約は不要)
◆耳寄り情報
十月より境内に期間限定で《七五三限定記念写真スポート》を設営します。(無料)

※出雲記念館にて会食着付け記念写真をご用意できます。【要予約】
※土日祝日は九時・九時半・十時・十六時半と三十分毎を目安に御祈願を斎

行します。ご家族様お揃いの上受付をお済ませ下さい。
※平日は随時お申込みの順にて斎行します。十・三十分程度の待ち時間になります。
※混雑時は上記の限りではありませんのでご了承願います。また時間ごとに最大二十四組ご一緒に社殿で御祈禱を斎行します。
※お付添いのご家族・おじいちゃん・おばあちゃんも一緒に昇殿する事が出来ますが、七五三詣はお祝いのお子様为代表ですので保護者様一名お付添いの上前方のお席にご案内し、その他のご家族様は後席にご案内します。土日の混雑時は御付添いの方のお席が足りない事もございますのでご容赦下さい。
・七五三(帯直し)は暦の上では通常十一月十五日といわれますが、九月下旬から十二月中旬までの期間で来られる方が多いです。
御都合のよい時期にお越し下さい。それ以外の時期はお問合せ下さい。